

分野横断プラットフォーム構築企画・宇宙医学ワークショップ  
「人類の宇宙進出時に必要となる宇宙医学・生物学研究」  
開催のご案内

2018年11月8日  
京都大学・宇宙総合学研究ユニット  
世話人 寺田昌弘

現在の有人宇宙ミッションは国際宇宙ステーション（ISS）での6か月間の宇宙滞在が主流です。今後は、NASAやJAXAなどの宇宙機関が、月面有人ミッションや火星ミッションを計画しており、人類の宇宙滞在は数年または数十年単位になることが予想されます。そのため、宇宙環境が人体へどのような影響を及ぼすかを研究する「宇宙医学」が益々重要となります。しかし、これまでの宇宙医学はスペースシャトルミッションの2週間程度やISS滞在の6か月程度の宇宙滞在をした宇宙飛行士をターゲットにしたものが主流で、数年単位の宇宙滞在をした人類は存在しないため、地上での模擬宇宙環境実験しか行われていません。また、今後は民間人のサブオービタル（低軌道）宇宙旅行なども計画されており、健康な宇宙飛行士だけでなく一般の人々（高齢者も含む）が宇宙を体験する日も近い将来現実のものとなります。現在の宇宙医学はこれら一般人を対象としたものでないので、新たな観点から宇宙医学を考えていく必要があります。

そこで、各宇宙医学分野（骨格、精神心理、宇宙放射線など）で現在活躍している研究者を集め、最新の研究について意見交換を行い、日本としての宇宙医学の方向性を話し合うことを目的とし、下記のようにワークショップを開催することになりました。奮ってご参加をお願いします。

開催日時：2019年1月11日（金）午前10時から17時

開催場所：京都大学 理学研究科セミナーハウス

[http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r\\_n.html](http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r_n.html)

（構内マップ・10番の建物）

問い合わせ先：京都大学宇宙総合学研究ユニット 寺田

E-mail: terada.masahiro.2m@kyoto-u.ac.jp

Tel: 075-753-9665

プログラム：（敬称略）

10:00-10:10 開会の挨拶（京都大学宇宙総合学研究ユニット 寺田昌弘）

10:10-10:35 電離放射線の健康影響（電力中央研究所 浜田信行 主任研究員）

10:35-11:00 フライトサージェンの役割（JAXA 嶋田和人 医長）

- 11:00-11:25 心循環器への影響①（愛知医科大学 岩瀬敏 教授）  
11:25-11:50 筋骨への影響（久留米大学 志波直人 教授）  
11:50-12:15 宇宙飛行士のリハビリテーション（杏林大学 山田深 准教授）  
12:15-13:30 ランチタイム  
13:30-13:55 心循環器への影響②（岐阜医療科学大学 田中邦彦 教授）  
13:55-14:20 閉鎖環境影響（JAXA 井上夏彦 主任開発員）  
14:20-14:45 宇宙酔いメカニズム（日本大学 野村泰之 診療准教授）  
14:45-15:10 民間宇宙旅行（東京慈恵会医科大学 関口千春 客員教授）  
15:10-15:20 休憩（グループ討論準備）  
15:20-16:20 グループ討論（骨格系影響、心理的影響、心循環影響）  
16:20-16:55 グループ発表・まとめ  
16:55-17:00 閉会の挨拶

以上